国際交流員がモンゴルを紹介！

連載

ジャルガルの ほ の ぼ の 日記

第62回 子どもの断髪式について

皆さん、サェンバェノー(こんにちは)。

今年のゴールデンウイークはどこへお出かけの予定ですか？私はこの時期こそハイキングをしたい気分になります。特に小坂みかん共同農園から葛城山へ行くツツジの花が綺麗に咲いているハイキングコースが好きです。

4月は、江川邸パンフェスタやFMいずのくに開局10周年記念イベントなどが開催され、それを機に天気の良い休日はママチャリで一人旅をしています。18年ぶりに一人の時間が出来て、さらに穏やかな街で有意義な休日を過ごせてうれしいです。

今回はモンゴルの風習、子どもの断髪式についてです。市内のあちこちで青空いっぱいに元気よく泳いでいる鯉のぼりを見て、国によって行事も様々だと実感しています。

断髪式と聞いたらお相撲さんの姿が浮かぶ人が多いかもしれませんが、モンゴルでは独特な風習、子どもの断髪式があります。

赤ちゃんは生まれてから3歳ごろまでまだ前世と繋がっていて、あらゆることに敏感だと言われています。そんな赤ちゃんを守るのは髪であり、ある程度成長するまで髪にはさみを一切つけないという習慣があります。日本ではスポーツ少年が丸坊主になることはしばしばありますが、女の子が丸刈りになることはあまり考えられないでしょう。

しかし、モンゴルでは男の子が数え歳で3歳か5歳、女の子は数え歳で2歳か4歳の時に断髪式を行います。日時や髪に誰が最初に手をつけるかが大事なので、子どもの生まれた干支で相性の良い日を選び、家族ぐるみで行う人もいれば、親戚や友達も招きレストランなどで行う人もいます。断髪式の当日は主役の子どもに民族衣装のデールを着せ、一番手の人が最初にナイフをまねた木の棒で髪を軽く撫でてから髪にはさみをつけます。ハダグ(儀礼用の絹布)に髪束を包み、次々と順番にお客さんにはさみで切ってもらいます。子どもはお祝い金や手土産をいただくので最後まで頑張って丸刈りにしてもらいます。私の子どもも4人とも断髪式を行いました。女の子は少しかわいそうだったので早いうちにと思って2歳の時に丸坊主にしました。当時、保育園には同じような女の子もいたし、みんなが知っているので違和感なく過ごしました。この儀式が終われば、髪はいつ切っても大丈夫ですよ！

それでは、バヤルタェ(さようなら)。

▲断髪式の様子
子どもは民族衣装のデールを身にまとう

▲断髪の際に使うはさみ

問 協働まちづくり課
☎055(948)1412

YOU & IZUNOKUNI あなたと伊豆の国

第11回

監物(けんもつ) 拓歩(たくむ) さん

清水エスパルス　DF

サッカーで夢を与えたい

Jリーグのプロサッカークラブ『清水エスパルス』に入団した伊豆の国市長岡出身の監物拓歩選手。3歳の時にテレビでサッカーの試合を見て「かっこいい」と感じ、プレイヤーの道を歩み始めました。市内の長岡SSSでサッカーを学び、清水エスパルスジュニアユースに所属したのちにユースに昇格。早稲田大学への進学を経て、今年2月、ついに子どもの頃からの憧れであった清水エスパルスに入団しました。

「サッカーができる喜びを毎日感じながらプレーしています」と話す監物選手。その気持ちに気付いたきっかけは、これまでのサッカー人生最大の壁ともいえる、大学時代のけがでした。サッカーができない苦しさから監物選手を救ったのは、故郷で家族と過ごした時間。「帰っておいで」の一言に動かされ、家族の優しさと伊豆の自然の中に身を置いたことで、リフレッシュすることができました。

多くの人たちの応援を胸に、監物選手が目指すのは清水エスパルスを背負う選手。そして、日本を背負う選手。さらには、世界で戦える選手。「自分の頑張りがサッカーをする子どもたちに夢や目標を与えられればうれしいです。かつて自分が感じていたのと同じように。」

監物選手にとって伊豆の国市は、はじまりの場所。「僕が生まれ、サッカーに出会った場所。楽しい思い出は全部そこにありました」と、溢れる思いを語りました。

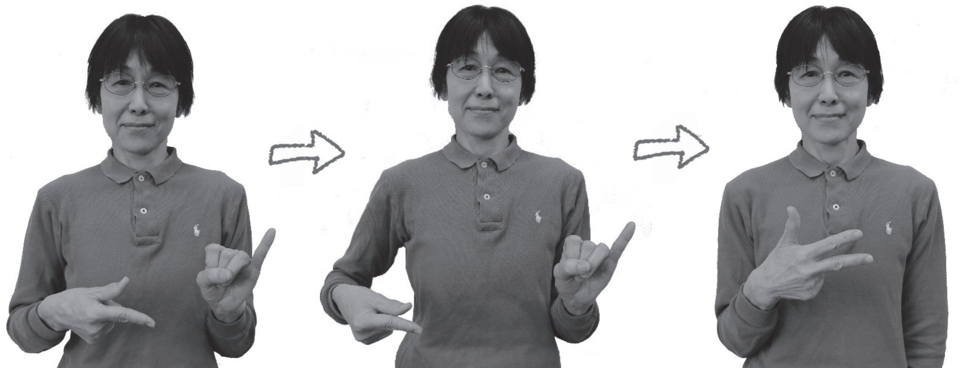
伊豆の国市を清水エスパルスのオレンジ色に染めたいと意気込む監物選手。皆さんも、監物選手の熱いプレーを応援しに、スタジアムへ足を運びましょう。

かんたん手話講座㊲

問 障がい福祉課
☎ 0558-76-8007　FAX 0558-76-8029

「伊豆の国市」

「伊豆の国」の手話は小指を立てた「い」を表す指文字の横から、開いた親指と人差し指を体の外側に動かしながら閉じます（「国」という手話の一部です）。「市」は指文字の「し」と同じです。指の間を開くようにしましょう。



新 手話モデル
「中目光子（ろう者）です。手話はろう者の言語です。楽しく覚えましょう。」